最優秀賞（京都府知事賞）

美しい心を持つことの大切さ

南丹市立園部中学校
一年　高屋　瞳華

「元島民のご家族は、もうここに来ることができないかもしれない。」

この言葉は、私の学校の先輩が、北方領土の国後島に行かれた時のものです。国後島には日本人墓地が今でも残されています。そのお墓参りの時に先輩が言われたこの言葉が、私の心の中にずっと残って離れません。

ビザなし交流で、その先輩方が国後島に渡られたのが五年前です。その時と比べても、国後島の道路や施設はどんどん変化しています。ニュースなどを見ても、ロシアがこの島を「自分のもの」として本格的に開発しようとしていることがわかります。でも最初、私の気持ちは単に「島を返してはもらえないんだ。」という単純なものでした。本当はもっともっと深い問題であるということを、私は何も知りませんでした。

島を返してもらえないということは、単に土地が奪われたということだけではありません。故郷や思い出を全部奪われたに等しいのです。心を奪われたと言ってもいいかもしれません。そんなロシアの人のことを私は「日本人の心を奪った悪い人たち」というふうに思っていました。実際に「領土問題は存在しない。」と来日したプーチン大統領が言った時、元島民の人たちはどんな思いで聞いておられたのでしょう。本当に辛い気持ちになりました。

そんな時に、国後島に行かれた先輩の話を聞いたのです。その先輩は、ヒグマが近くにいるので急いで墓地を離れなくてはならないのに、どうしてもしっかりと手を合わせたいと話されたそうです。その思いやりあふれる行動を、わたしは「美しい」と思いました。また、こんな話も聞きました。あるロシアの方々が「国がこの島を日本に返す決断をしたら、私はそれに従います。でも、そうなると私には行くところがないのです。」と話されていたそうです。それでも、その方々は訪ねていった日本人を歓迎し、日本の文化・技術・教育制度を尊敬していると話してくださったそうです。

先輩やこのロシアの方々のように「お互いを尊敬し、思いやりという美しい心を持つこと」。これが、北方領土の問題を解決するために私が考えた方法です。

かつて、日本とソ連が強い緊張関係にあった時、一人の少年を救うために両国が歩み寄った出来事がありました。一九九〇年のコンスタンチンくんを救うための両国の協力のことです。大やけどを負った彼の命は、サハリンの病院では救う手立てがなく、その時にサハリンを訪れていた日本人が彼の病状を知り、北海道庁に連絡、その情報は直ちに外務省に伝わったそうです。あと七〇時間で命が消えてしまうという状況を乗り切るため、両国の関係者が動き、ついに日本の医師を乗せた日本の飛行機がサハリンに「仮上陸」という形で降り立ったのです。その後、札幌医大に搬送された彼は、懸命な医療・看護の下、危機を脱出しました。彼の医療費は日本人から集まった約1億円もの募金でまかなえたばかりでなく、残ったお金を元に、毎年北海道とサハリンとの間で、医療技術の勉強会が開かれているそうです。

「元島民のご家族は、もうここに来ることができないかもしれない。」

そんな悲しい思いをさせたくない。これは、どんな国の人でも同じように持つ「美しい気持ち」だと思います。日本とロシアの間にある北方領土の問題の解決は簡単ではないと思いますが、私はお互いをよく知り、お互いを思いやる気持ちを持ち続け、やがてお互いの納得の下、北方領土が日本に帰って来た時には、ロシアの人たちの心も大切にした協力と交流を進めていく日本人の一人になりたいと思います。

最優秀賞（京都市長賞）

北方領土問題と人権の尊さ

京都市立嵯峨中学校
三年　児玉　宜伸

北方領土問題は、日露間の領土返還交渉の域を超え、今や人道的見地からも一刻も早い解決が求められる外交問題であります。

二〇一五年八月、僕は「北方領土青少年等現地視察支援事業」に参加し、北方領土問題の背後にある深刻な人権問題について学びました。納沙布岬に立ち、国後島が本島からわずか十数キロしか離れていないことをこの目で確かめたとき、故郷を目の前にしてその土を踏めない元島民の方々の無念さを実感しました。元島民約七千人の方々の高齢化の現状を考えると、早期解決に向けて根本的な対策を講じる必要性を認識しました。

今年の五月六日に安倍首相とプーチン大統領がソチで会談したことで、北方領土問題の解決への糸口が見えたように感じましたが、五月二〇日、プーチン大統領は、領土問題と日本との経済協力の問題とを切り離して交渉する姿勢を強調しました。「一つとして北方四島は日本に売らない。」という趣旨の発言をする一方で、「日本などすべてのパートナーと対話を行いたい。その中には平和条約締結問題も含まれるし、その文脈の中で領土問題も話し合う。」という意思表示がありました。僕は、この外交姿勢は玉虫色であり、信ぴょう性がないものと感じています。

二〇一六年五月一九日、プーチン大統領は「ロシア・東南アジア諸国連合（ASEAN）首脳会議」を開催し、アジア太平洋地域の安全保障体制にも言及しました。また、最近ロシアが千島列島の軍事化計画を進めていることを知り驚きました。このようなロシアの動向を知ると、ロシアは、千島列島をアジア太平洋地域の安全保障の拠点として位置づけているのではないかと思います。日本がいかなる法と正義の原則を掲げようとも、北方四島返還要求に誠意をもって応じないロシア外交の背景には、安全保障体制の確立とアジアへの関与という企てなどがあるかもしれません。

日本は近年、日米同盟の一層の強化に努めています。安全保障関連法の施行やオバマ大統領の広島訪問は、これを象徴する出来事であります。米露関係が冷戦状態を続けているような国際情勢の下では、日本の立ち位置が重要になってきます。北方領土問題は、強固な日米同盟の枠組みの中だけで解決できるものではないと思われます。北方領土問題の歴史的、法的事実をどこまでも無視し続けるロシアの不誠実な姿勢に立ち向かうためには、まず国際世論を味方につけ、人権の尊さを前面に押し出した外交を展開することが必要ではないでしょうか。

最後に、返還運動を加速化するために何ができるかを考えてみました。元島民の方々との交流を通して、北方領土問題の本質と現状を学習するとともに、その成果を広く配信し、人権の尊さを、声を大にして訴えていきたいと思います。